

資料2 別添1

各地域包括ケア推進会議における論点

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
東部地域包括支援センター	9月8日	町会	1	医師	1	ケアマネ	1	高齢になって心身機能が低下した方の自宅での生活を える	ア イ ウ	高齢期の心身機能低下に伴い在宅での生活を継続していく為に、移動支援が必要。 ○脳梗塞を繰り返りハビリ終了後もデイケアを利用しているが、自宅が集合住宅の5階であり昇降に困難がある事例 ○昔から近所付き合いのある住民の声掛け見守り体制を整備していく。 ○緊急通報装置やあんしん見守り電話を活用していく。	○地域住民主体の見守り活動の状況を地域包括と共有し、見守り体制を整備する。 ○新しいシステム(IT活用など)を取り入れる。	○緊急通報装置の設置条件の緩和(携帯電話でも利用可能にし、固定電話のない高齢者への対応を可能にする)シルバーカーの使用要件等をCMに普及する。		
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者								
		市社協		薬剤師	1	通所介護								
		民生委員	1	看護師		訪問介護								
		ボランティア		作業療法士		訪問看護							1	
		高支連		医療相談員		地域包括	3							
		生活支援CO		理学療法士		市役所	2							
				警察		特別養護老人ホーム								
				消防		小規模多機能								
						合計	12							
小金原	R3.11.15	町会	11	医師	2	ケアマネ		1. 第1回地域包括ケア推進会議のふりかえり 2. 活動の再開にあたり心配や困りごとはあるか? 3. コロナ禍の活動～医療の立場から～ 4. 各活動の紹介 6. 地域共生にむけて	ア イ ウ	複合的な問題を抱えた世帯への支援が必要なケースが多い。 ○介護量の多い利用者、国外に住む家族も含めて支援した事例 ○認知症で意思表示ができない親と適正な判断ができない子にケアマネが悩む事例	○人とつながる場が果たす役割が大きい。 ○コロナ禍でも十分な対策を講じた上での活動の場の継続が重要である。継続していた団体の活動のとりくみを聞いて再開・継続のヒントを得る。	○出張包括(3回)とパトワークにより町会を中心とした地域とのつながりを強化している。 ○引き続き町会の活動の場に出向き人がつながれる地域づくりにむけ協働する。	○「地域共生」について複数の場で議論や活動がされているが、横のつながりが希薄である。横につながる体制づくり。	
		地区社協	1	歯科医師		介護事業者								
		市社協		薬剤師		通所介護								
		民生委員	1	保健師	1	訪問介護								
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護								1
		高支連		スクールソーシャルワーカー	1	地域包括	6							
		生活支援CO		理学療法士		市役所	2							
		オレンジ協会員	1	警察		特別養護老人ホーム								
				消防		小規模多機能								
				活動団体	3	合計	31							

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
明第2 東地域 包括支 援セン ター	11月17日	町会	5 医師	1 ケアマネ	7	1.防災における 平時の備えと有 事の際の対応に ついて	ア 地域とサービス事業 所で行える連携の内 容とは		○事業所間での関係性の構 築。要支援者リストの活用や 登録を促す。	○要支援者リストの登録のた めに、様々な機関やお店と連 携して声掛け、用紙を置いて もらう。			
		地区社協	歯科医師	2 介護事業者	1								
		市社協	1 薬剤師	1 通所介護	4								
		民生委員	2 看護師		1		訪問介護	1	イ 自助を高めるため共 助の立場から行える 普及活動とは		○必要物資について何が必要 か等をリスト化する。	○避難訓練に事業所職員や、 地域住民が参加し、有事の際 の避難経路を確保する。	
		ボランティア	作業療法士	1	訪問看護		1						
		高支連	医療相談員		地域包括		5						
		生活支 援CO	理学療法士	1	市役所		1	ウ グループ ホーム 小規模多機 能					
			生活Co	1			1						
			消防										
				合計	36								
常盤平 団地地 域包括 支援セ ンター	11月4日	町会	2 医師	1 ケアマネ	2	1.個別事例検討 から把握された 地域レベルの課 題について 2.地域レベルの 課題解決の取り 組みについて	ア 見守り不在・地縁の 欠如・孤立・認知 症・セルフネグレク ト等の課題を抱える 人を災害時にどのよ うに支援するか。	○生活が困窮しており受 診できていない事例 ○医療やヘルパー支援を 受け入れない事例 ○物忘れて困っている認 知症の事例	○顔なじみを増やしておく ○安否確認について日ごろか ら検討しておく ○防災意識を持つ	○イベント等で顔なじみ、声 掛けしやすい関係を作る ○常盤平地区社協の「あんし ん登録カード」を有効活用 ○防災訓練を実施する	○民生委員の見守り活動や 市の避難行動要支援者避難 支援体制、家具転倒防止器 具等取付費助成事業等の情 報発信の強化		
		地区社協	1 歯科医師		介護事業者								
		市社協	1 薬剤師	1	訪問介護							1	
		民生委員	2 看護師		訪問看護		1	イ 地域レベルの課 題について					
		ボランティア	作業療法士		福祉用具		1						
		高支連	医療相談員	1	地域包括		4						
		生活支 援CO	1 理学療法士	1	市役所		1	ウ 特別養護老 人ホーム 小規模多機 能					
			行政書士	1			1						
			その他	2			1						
				合計	24								

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること												
馬橋西 地域包 括支援 セン ター	11月26日	町会	2	医師	1	ケアマネ	2	テーマ【見守り】 ・障害、高齢等の理由に関わらず困った時の相談場所の周知が必要。 ・地域で課題に気が付き解決に結びつけていく方法とは	ア 相談窓口について。高齢者と障害者世帯への支援について。	○家族、地域住民の関係性の希薄さも有り、本人や地域住民が問題に気が付きにくい。	○薬局だけではなく、高齢者がよく利用しているヤクルトや新聞配達の仕事所への窓口の周知。	○ケア会議だよりの作成、配布。 ○地区社協などを通じて関係事業所周りをを行う。	○居場所作りでの場所の確保										
		地区社協		歯科医師		介護事業者								イ 一戸建てや集合住宅での違い。自分の意志で関わりを拒む方について。	○近隣の見守りはあるが、本人の意欲低下等により近隣との関わりが難しくなっていた事例	○繰り返し訪問し関係作りを行う。相談をしていく気になった時にすぐに相談出来る様に案内のチラシなどを渡す。	○地域包括支援センターのチラシをいつでも渡せるようにしておく。	○拒否が強い場合、課題内容によって（育児、病気、障害等々）の情報収集の方法について。					
		市社協		薬剤師	1	通所介護																	
		民生委員	1	看護師		訪問介護													ウ 地域の見守りを担う人はだれか。回覧をまわさない世帯について。	○郵便物がたまっていて孤独死していた事例。隣近所からはいないと思われていた。回覧もまわしていなかった事例	○雨戸の開け閉めや洗濯物が干してあるかなど、最低限の活動の有無の把握。	○地域の見守りを担う方の周知と活用の推進。 ○回覧については町会に確認。	○セルフネグレクトに対する啓発活動。
		ボランティア		作業療法士		福祉用具																	
		高支連	4	医療相談員	1	地域包括	4												合計	24			
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	1																
				行政書士	1	特別養護老人ホーム	1																
		その他	1	小規模多機能	1																		
新松戸	11月18日(木)	町会		医師	1	ケアマネ	3	①コロナ禍でのオンライン担当者会議が出来ない。 ・病院での面会が制限されており、退院前に本人の様子確認が出来ない。	ア ・自宅で大人数集まって担当者会議が出来ない。 ・介護保険の制度利用している本人と障害の制度を活用している子。支援者同士の情報共有がしづらく、定期的に担当者会議ができればとの提案あった事例	○オンライン(ZOOM・LINE)で担当者会議実施。自宅、ケアマネ、包括、病院、各サービス事業者等をつなぐ。	○オンラインの活用。新松戸地区のCM事業所では半数がすでに実施しているが利用者や事業所に向けて活用の支援をする ○併用していく事が大事。オンラインの弱点はある。反面、移動時間の短縮や参加しやすいというメリットもある。	○オンライン活用のためのタブレット等の貸し出し。 ○WiFi等、外でも使える環境のインフラ化。											
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							イ ・オンラインの環境・様子が見えづらく、体操の加減がわからなかったり、急な体調不良等への対応も難しい。人数が増えれば増えるほど把握しづらくなる。	○配偶者の気持ちが変わるたびにサービス利用につながらず、今後の対応に不安がある事例	○ZOOMで体操教室実施。講師と参加者の自宅をつなぐ以外に、マンションの集会所ともつないだ。また、本人だけでなく、家族も誘って一緒に参加することも出来た。	○オンラインに対して包括職員が接続等の説明に何うことは可能。 ○コロナが落ち着いても、会場とオンラインの体操、両方の開催(集合とオンライン別々での開催・併用)を検討。また、DVDや動画の活用を促す。	○オンライン活用のためのタブレット等の貸し出し。 ○WiFi等、外でも使える環境のインフラ化。						
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護																	
		民生委員	3	看護師		訪問介護																	
		ボランティア		作業療法士		訪問看護																	
		高支連(重複)	1	医療相談員	1	地域包括	2																
		生活支援CO	1	理学療法士		市役所	2																
		マンション	1	警察		特別養護老人ホーム	1																
保健師	1	消防		小規模多機能	1																		
企業	2	言語聴覚士	1	合計	24																		

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること			
明第1	11月19日	町会	2	医師	1	ケアマネ	1	災害時の避難行動要支援者に対する支援体制・ネットワークの構築について ～平時からの声かけ・見守りのために～	地域との関係の希薄化、他者からの介入を拒む、発信力が弱い方がいる一方、起伏の多い地域である。避難行動要支援者名簿登録、活用推進について検討が必要。	○がんを告知され、重度知的障害を抱える子と生きると決め、手術・化学療法を受けたケース他	○地域住民と民生委員との関係作り、相手の顔がわかる関係性が大切。 ○地域の施設での役割として、平時より困ったことがあるれば相談できるシステム作りが必要。	○避難行動要支援者名簿の役員間での共有。 ○SNSの活用、双方向で繋が関係作り。 ○平時より、BCPIについてケアマネと支援方法を共有。	○名簿登録者を増やすための取り組み、名簿管理を含めたシステム作り。 ○地域での支援者を増やすための取り組み、各避難所の整備、支援体制の確保。 ○一地域でモデル地区を作り、地域住民の特性、課題を把握し、他地域とも共有を図る。	
		地区社協		歯科医師	1		介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1		通所介護							
		民生委員	3	保健師	1		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士			訪問看護							1
		高支連		医療相談員	1	地域包括								6
		生活支援CO		理学療法士	1	市役所								5
		NPO協議会	1	警察		グループホーム								1
				消防		小規模多機能								1
				医療機器メーカー	2	合計								30
六実六高台地域包括支援センター	11月17日(水) 10:00～12:00	町会	1	医師		ケアマネ	4	独居高齢者が消費者被害にあわないよう安全に生活するために地域でできることは何か？	○独居高齢者が悪徳商法に遭っているケース	○町会や近所の人と交流し、情報共有する。 ○防犯カメラや照明、猛犬注意のシールなど予防策を検討する。 ○悪徳業者の手口が巧妙になってきているので、具体的な事例を集めて周知・啓発する。	○訪問時や運動教室など地域住民の集まりの際、消費者被害の注意喚起を行う。	○市役所、警察、包括で連携して情報発信、注意喚起する。 ○防犯カメラや照明の設置等、防犯に対する費用の助成。		
		地区社協	1	歯科医師	1		介護事業者							
		市社協		薬剤師			通所介護						1	
		民生委員	1	看護師			訪問介護							
		ボランティア		作業療法士			訪問看護						1	
		高支連		医療相談員		地域包括							3	
		生活支援CO		理学療法士	1	市役所							1	
		老人会	1	警察		特別養護老人ホーム							1	
				消防		小規模多機能							1	
				その他	4	合計							22	

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者					議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
本庁	11月17日	町会	1	医師	1	ケアマネ	1	課題を抱える8050世帯が早期に知覚され、早期の対応につながるために、各関係機関等がどのように連携を図ることができるか	○疾患を持つ高齢者と重度障害の子をもつ世帯の事例	○地域住民へ向け多分野の相談窓口の周知強化。 ○各関係機関が世帯全体にある課題への意識強化と多分野の窓口周知、役割への相互理解と連携を図る。	○地域住民へ向け多分野の相談窓口周知の機会をつくる。 ○民生委員への意識強化。 ○地域ケア会議等を通じて各関係機関が集まる機会をつくり関係強化に努める。	○行政関係窓口各所における、8050世帯が抱える課題への意識強化。多分野の窓口周知。
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護	1					
		民生委員	1	看護師	1	福祉用具	1					
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護	1					
		高支連		中央保健センター	1	地域包括	4					
		生活支援CO	1	しぐなるあいう	1	市役所	1					
				女性センターゆうまつど	1	生活支援課	1					
		福祉まるごと相談	2									
		専門相談支援センターCoCo	1	合計	22							
常盤平 地域包括 支援 センター	11月18日	町会	1	医師	1	ケアマネ	9	キーパーソン不在の方の対応事例について	○判断能力はあるが身寄りのない高齢者が急変し、判断能力が低下したことで金銭管理が行えなくなり、成年後見制度申立て中に亡くなり債務整理が行えなかった事例。	○各種制度・エンディングノート・ACP・自筆遺言等の備えのセミナー実施・作成支援 ○茶話会・パトワーク等で地域に情報提供 ○多職種・地域との連携 ○エンディングノートや助成制度の啓発活動	○住民がそれぞれ情報を得て自分の最期をどのようにしたいか考え準備する ○啓発活動や情報を得られる場を準備する	○身寄りのない方が備えを準備するための啓発活動 ○法定相続人の調査委託 ○後見制度申立て・あんしん生活支援事業等の費用助成) ○既存制度(日常生活自立支援事業、後見制度)を利用しやすくする
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者						
		市社協	0	薬剤師	3	通所介護	1					
		民生委員	1	看護師	1	訪問介護	1					
		ボランティア		作業療法士	0	訪問看護	1					
		高支連	1	医療相談員	2	地域包括	4					
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	1					
				警察	0	特別養護老人ホーム	1					
		消防	0	小規模多機能	1							
		行政書士・司法書士	6	合計	39							
							生存中(入院中や申立て中)、死亡後の金銭管理について支援者が法に触れずに金銭管理できる方法や資源、備えが必要	同上	○本人情報をシステム共有・活用 ○サービス導入時にACPを聞き取る ○医療機関、薬局からの普及啓発や声掛けの実施 ○「備えフェア」を開催する ○茶話会やカフェでもしバナゲームを実施する ○商店や薬局で備えの出張講座を実施する	○地域の集いの場において備えに関する啓発活動を実施 ○身寄りのない人が安心してサービス利用ができるシステムづくり	○身寄りのない人に関する情報(ACP、避難行動要支援者等)を管理し共有できるシステム作り ○上記の情報を収集する機関、様式 ○身上監護を担う機関作り ○あんしん生活支援事業に遺言書作成もバックにする	

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
矢切地域包括支援センター	11月19日	町会	1 医師	1 ケアマネ	3	ア	フレイル予防における「社会とのつながり」がない	○コロナ禍で高齢者が外出している姿を見かけることが少なくなった。町会の行事も中止になり疎遠になったケース	○集いの場、行事に関してはオンラインでも出来るよう方法を検討する。 ○包括の事業の周知、民生委員からの早期相談。	○市で行っているオンラインサロン体験講習会の活用 ○介護事業者等の協力による矢切元気応援クラブの継続	
		地区社協	1 歯科医師	1 介護事業者							
		市社協	1 薬剤師	1 通所介護	1						
		民生委員	5 看護師	0 福祉用具	1						
		ボランティア	作業療法士	1 訪問看護	1	イ	コロナ禍におけるフレイル予防について	○教室やイベントが再開しても会場まで行かないケース	○移動支援やボランティアの拡充を図る。	○行事やイベントについて移動支援を進めるとともに、移動手段のない方が行きやすい会場を提供してくれる施設等の検討も考えていく。	
		高支連	医療相談員	地域包括	4						
		生活支援CO	理学療法士	市役所	3						
			保健師	まつどNPO協議会	1						
			有識者	市民サポーター	1						
				合計	29						
馬橋	11月4日	町会	医師	1 ケアマネ	3	ア	これまでの居場所づくりを一步すすめる「生きがいづくり」の場とは	○妻が他界し、独居生活となったご利用者が、再び生きがいを持てるような地域支援についての事例	○やりがいを求めている人達等にもっと参加していただこうように工夫する。 ○参加者に役割を持ってもらったり、得意なことを引き出しりする取り組みを行う。	○現在行っているつどいの場を継続して、地域にさらに浸透させていく。 ○参加者を増やしていく。	○居場所づくりのボランティア活動をマイレージの対象としたり、同じようなポイントとして集めたりすることができる仕組みを作る。
		地区社協	歯科医師	1 介護事業者							
		市社協	薬剤師	1 通所介護	1						
		民生委員	1 看護師	1 訪問介護							
		ボランティア	作業療法士	1 訪問看護	1	イ	複合的課題を持つ家庭をまるごと支援していくためには	○要介護1、脳出血後片麻痺の本人と認知症のある配偶者の在宅支援についての事例	○専門職同士の横のつながりと、非専門職との関わりを作っていく。	○日頃から地域での見守り活動を行い、相手に認識される存在になる。 ○専門職だけでなく他の方と一緒に関わっていけるようにする	○専門職と専門職以外の方がチームとして関わっていく際の行政サイドからの支援
		高支連	医療相談員	地域包括	4						
		生活支援CO	1 理学療法士	1 市役所	2						
			警察	特別養護老人ホーム							
			消防	小規模多機能							
				合計	18						
				ウ							

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題		①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
		町会	医師	ケアマネ	6									
明第2 西	11月10日	地区社協	歯科医師	2	介護事業者	要支援・要介護 高齢者の防災	ア	明2西地区は全域が 2m以上浸水想定区 域である。		○町会が自主防災の中心と なっている。	○町会連合が年に1回の避難 訓練を行っている。	○浸水リスクの低い他地域 にある避難所への広域避難 のための移送方法（バスな ど）を検討してほしい。		
		市社協	1	薬剤師	1								通所介護	
		民生委員	2	看護師									訪問介護	
		ボランティア		作業療法士	1								訪問看護	1
		高支連	1	医療相談員									地域包括	6
		生活支 援CO	1	理学療法士	1								市役所	2
				警察									特別養護老 人ホーム	1
				消防									小規模多機 能	
													合計	26
						ウ	地域住民と介護・福 祉・医療事業所の繋 がり弱いため災害 時に連携がとりにく い。	○平時から町会・民生委員等 地域と福祉事業所の連携を高 めておく。	○地域住民・福祉事業所との 合同の防災勉強会を開催す る。					